蕉句袋拾集

冬

中村俊定文庫
文庫 18
678
4

宮内省図書寮

俳諧発句題林集冬之部

閑夏冥
東蓋輝

十月

初冬

きりぎりす乃機よ入るやきりぎりす　蓼冬
初冬や日和ふなびき京乃道　蓼村
きつね火や二ッ三ッよ冬ごもり　曉雲
初冬や兵庫の奥の冬みくさ　石波
初冬やきけふのまゝ小日乃尚　青蓼

小春

時雨て八小春乃人乃且う邪　一雨

海乃音一日遠きこゑ小さくなる　曉雲
祖母達の忘れく成小春日　蓼太
猫のこゑ垣根押くらふ小春哉　良文
ひのもとを出て小春の月寒ぶ　二柳
暗部乃小春敷よをたくらふ　庭井

小六月

まゝ蠅乃命なりもて小六月　連山
生うるまくまりの山打を小六月　月巣
少し咲梅も先より小六月　歩月

明年は大根うまし神無月　沾徳
宗任の仏ゑをも神無月　菊村
祝ひ小春の菊や神無月　九兆
切ぬく柳八方しかりつき　巻来

神送り　神しる為

神送り舟遊をひるゝ帆の走り　冬李
きれふゝ厩を嗅ゝ神の留主　丈波
あゝ紙茶もをゝく志てや神送　茶城
一面をひたゝたるゝ神送を　依芽
神宜達の陳事もあし神の留主　文朗

孟冬之旬

定衣

稻居れども忘れぬ古郷の　社牛

燒糟を食

燒糟の手飽てやれ欲ぬ酒の　常丟

洋煙

春煙やゆるゆるとやゆるゆるとや五代　紫雄

進燒炭　煖燒會

煖燒會菫月の猪を焦がしきと　右蓋

玄子の餅　市玄猪

猪手打くゆかしき玄子哉　芳宗

冬ノ二

行くたびくまぼの姫もゐれば　洞宗

狼狽乃あるかさゝ小玄子こる　西武

金婦子牡丹餅たべん玄子哉　苔村

冬さま

みそれや猪さくつゐぬ仕成寺　臭蓮

みそさまや挑のうれ猪乃弦　車莫

射場始

弦音の時白紀すや射場始　立圃

弦菊の宴

弦菊や酒の中にうるされ玄猪　正玄

蓮広忌

蓮広忌や宗旨ばしら伝ふ　太祇
蓮広忌や繁昌する法ふかし　来山
蓮広忌や和尚ひとりぬれ花　召波

十夜

我妻を泣くよ泣れて十夜ぶ　蕪村
ひのもたくしに茶もふくと十夜ぶ　芝村
人寄れば小ちふひのまるる十夜ぶ　召波
寄ぶりの子ふ門くひのふ十夜ぶ　太祇
業人の業と十夜の彩れる　巴丈

我家にても十夜ハやすき寺ぶ　梅竹
淡〳〵く経念ふ夜ぶ　屋秋
吹時〳〵十夜乃夜ぶ　南栄

興福寺法華会

法華会もちも太刀や御らん寺長谷　立圃

維摩会

維摩会や庫も書〳〵ぬ祇園祭　素九

金光羅会

金光羅会や寄よ〳〵法〳〵　沾徳

沖彩講

法華経や　咲きてくさとる本紙茶花　素仲
法華経の　花ぬるや　女郎　太祇
人京や　月夜明るる　法華　几董

下元日

炉ばして　雪ぬれてくらし　下元日　貞室

東福寺　泉山忌

糸菊の　茎多ろ　泉山忌　竺秋

夫溝

堂上の　法河法寺多　陸奥　嘯雲
あれなひや　庭く　池出て　夫溝　樗良

冬ノ部

夫溝　茨

朝社　家く　一日　みるや　夫溝　柳几
夫溝　火　炉　ことり　多　乱　石波
恵夫寺　溝や　粽　枝乃　家の　跡　東益

大社神事　神集

神風乃　咲くまもなく　大社　仙霧
集ふ　神社　夫　義や　八百　美　夫徳

神迎

一日　社日　和　きや　神迎　法し
法勝寺　大素　會

燈籠　巨燈

燈籠や一座の客も人の顔　素丸
燈籠や世話焼通る夫婦合　太祇
炉辺や一役負ひ一義居る　素丸
燈籠や市よりくまるる松しぼり　重厚
燈籠や志ゆくもあるる今糸　吼志
炉籠や主表一家の呼いとく　巻夕
燈乃友や影うつきる義面　月下
巻戸や巨燈の中を風の行　太祇

宿書に巨燈とあるを所在なさに夜ごとに行て清したる巨燈を夫婦世話合にて燈しつくるを譬の別深し　蕪村

一の文　牡裡

石渡

埋火　火桶

文机や机乃下に相火桶　宋屋
埋火や業平の焦るる臭ひら　青蘿
うつみ火や夕ぐれ花翔乃月　見風
埋火や何うつ清したる花の果　大曽
麦水

眼のあまりに表紙黐もつ相火桶　呉来
つまらぬ山もいとをぬ中に火桶哉　以山
火桶をふ磨ひらき月日の香　石波
行とらくや火桶よ張り竜脳子　二柳
ほりくと女達をく火桶香　移竹
うきくの家あてあれ火桶哉　曉雲

丹焙裏

大尔あ乃足投出しくあらつ和　石波
こあ支ひ孔ひ出くをる丹焙哉　左右蓋

口切

口切や賛斗目の裏乃炭之さ　洒堂
口きらくやくんとを小筆撰み　太祇
口きらくや薄とれく法樂味噌　移竹
口切や小撥下なく只なく手　蕉村
口切や小しを吋るのよくをを　雨人
口きらくやちくとれく行の奥　石波
口切やきらくを彩るれ家乃風　素凡

初時雨

切雲れをくみまて初時雨　宗吏
淫初くをらをを吋る　樗良

初時雨　芭蕉村

夜ごとの雲にしぐるる初時雨　梅竹

ちきる猪よりとりの初時雨　白雲

茅舎ゆくりなくありもの初時雨　吏中

梶なくるる松ぬくや初時雨　蕪考

十月やまだ茅舎よりつる時雨　定雅

時雨するすれ違きく初瀬山路哉　石波

朝日さす竹よりとくる初時雨　左盍

楊さしや紙衾もくるる初時雨　麿雨

一ツ家乃竹ぶし中ゆ出て時雨哉　李醉

一夜つゝさしくるる時雨哉　宋阿

世ぶし乃野辺ゆ時雨哉　樗良

九条より小ぶる雲の枝のさゝれ哉　雲皷

伺人の寝ぬ程大ぶる小雨哉　蕪考

女ゝくらぬ町ぶ時雨哉　丈子

をしのぶ乃ぶ時雨哉　野紅

雪ぶ鳥乃ぶ時雨哉　丈芝

子の歌乃ぶ笠ぶ時雨哉　千角

冬ゝ乃　冬雨

かもきゝ寄孫よく時る夕川の水　連女

常磐なる志のひ歩行やゆふ時る　太祇

初ぎぬさへ乃色ひ忘れや夕時る　鶏竹

志くるゝや甚買ふ人の識よき　蕪村

生きゝ世に寐さんとわりき時るゝ　呂波

朝日や日ぬあるうちに夕時雨　宗文

時るゝりきしや朝ぬ日和の月　蓬盃

夕川や宮ぬきゝ浅り時る　嘯壺

川音時る　松風時雨

晴初てさや川音の時るかな　有橋

瀬を音く川音遠き時るゝ　白雄

眠らんとすも時るゝり庭乃松　宋阿

住吉よもたれし松のしぐれ哉　篤雅

志ぐれ

志たくり六日和も流もと志やたれど　兎雀

行列乃中切志るしまきゝる哉　朔宇

一志くれ跡先志くぬ境かな　宗瑞

初霜

あれ川家やまくみ首板乃竹ぬ月　野朝

はつ霜乃色見ん京と根岸原　麦林

きりぎすやあきをおもはせる玉松　竹亭

霜

赤くと霜おつるうら蕎麦の莖　宗文

親と子は霜夜とかこふ野ゐるぶ　陸石

焼うしてを消り霜乃楢ゐ　氷芽

ひのさうねの稜ゐふ霜は蔵ず　曉雲

日は出うして這出る霜のいとゐ　有庸

朝霜やくもれきくうり看ゐ　二方

芝の霜は霜うり吸く山うゐ　几董

軒霜や屋根つゐひり新の息　義門

あてまるふくく麻入る霜表ず　牧童

霧の踏ちうり何とあり霜柱　四方

砂を掘舟屋うすく霜は声　提亭

戸うしてもゐ入る眉は霜表ず　蕪村

井桁を掘ふき初と初の霜　二柳

笹舟は霜や表毋のもゐ乃先　太祇

朝霜やつるきと掘ゐつ縄　芭村

もとく寸法ハんりうは霜　召波

蕎葉　木の葉

曙ハ外　狐乃ふるふ蕎葉ず　宗文

あふけハ木くもまれ落葉哉　芭蕉村
落葉ハ落葉ハ雨ハ雨ハ雨ハ　曉臺
ちるもくむ落葉もひろはず　百波
落葉木枯葉みな捨る根元哉　北鯤
面白く落葉鍋ハ水の山うち　一義
ちる宗さふ落もくもあぬ落葉ぶ　几董
落つるあぬ本枯葉ハ尚うるハ　風水
石佛ハ枯ハ枯ハ本乃茶ぶ　曉臺
淋しさハ吹ぬ日ハ有本枯葉ぶ　二柳
うきよをる蛤茶屋の本の茶ぶ　文考

冬ノ十

木枯

木からしや花ゟ岩の戸よさ寒ぶ　百波
こがらしや西山あさく夕陽日　宋文
木がらしハ枯根ハ浮や伊豆の海　太祇
木枯乃湯の山さし汐女の袂　移竹
風ハ吹むしろ巻ぬ辻郷ハ　曉臺
木枯ハ枯ハ枯ハ枯ハ枯ハ枯ハ　秋夫
こがらしや海一そひ十出る月　士朗
風や何十世ワるる家之影　芭蕉村
木枯乃ふもゆきさし窓の破　蕪村

木がらしや海うつさき山の麓　元角
木がらしや芝川とふる夷うれ　九董
風やなのすれつまの木の葉ちり　巴角
木枯乃星ぬけ吹出す夕うら　青牛
木枯や池ぬしとしの石塔哉　琵木
こがらしや佛社前乃古りうし　岳翁
風ちりぬ山ちとたふ表ぬぶ　社芝
木枯やひとてとて雪をぬぎすて　樗良
ふるしやあの立表ハむら鳥　心水
風やみりハ月をあるる表し　也有

木がらしやゆかしふるしの社　左蓋

紅葉菱

時雨ぬぬれて紅葉の菱目ぶ　樗良
詩や歌乃ひとよ菱紅葉ふ　風狀

柳うゑ

柳うゑて六田社前色たるる　涼菱
嵐ふふきの居ふりうれ柳　太祇
乃枝乃田畑ぬえうり枯柳　存義
安礼ち橋ぬ落ちうれ柳　嵐山
れうぬ月も荷ぬぬやるれぶ　その女

冬木の梅

枝打ハらほゝと冬木乃梅哉　多醉
〽一輪風乃風ゝ梅ちる　曙雲

枯野　枯野の哀

捨る社命をときうゝ枯野哉　夢夫
人毒ゝ乃ゝ乃ゝ枯野哉　仝
ゝ〽ゝ野中ゝ松の向ゝ　宗文
る社尾ゝ萩のゝ枯野哉　苺村
徐場乃内まゝもくるゝれのゝ　梅竹
りる社人を身ゝる枯野哉　太祇

冬ノ十二

冬社野や世渡る人のあゝ　如竹
実座ゝゝ向ゝゝまる枯野哉　石波
ゝりゝゝゝゝゝ夕雲ゝ野哉　曙雲
ゝて野ゝ社野ゝ人のゝ　雲之
野ハ枯ゝ地ゝゝかる嵐哉　松琵
白根ゝと雲ゝ世ゝれ野　秋坊
ゝる哉

登基乃すゝもれゝ冬野哉　麦遊
白岩社あなあゝや枯すゝき　麦水
枯尾花

なりくして根つよくなりぬ枯尾花　曙
丹志ふ浪野に立やれ尾花　几董
表あらしや嵐なり〳〵尾花花　江子
多年後乃枯屋に立る尾花　蕪村
尺五に足らぬ人丈ぬけ枯尾花　左盍
萩うゑる
れんやは波よる傾き萩乃露　芦庵
表の素堂ふこてく萩の露　曙
枯芦
素天り門辺の芦の枯葉ふ　仝

れなり〳〵秋杉伏く月の新もふ　呂宙
枯くてかしなき酒乃芦丈ふ　百人
芒枯　うゑ素
ひさこうるゝ芦もとれそり石社宮　呂波
夕照り〳〵つく波の芦素ふ　玄来
芦ゑ〳〵寄ゑかまくく石佛　乃有
芒枯や幕迫巴行〳〵川　何童
むすんくゝる芦かゝ枯る禁花香　如竜
ゑる仏芦に枝り何とあり枯ゑ　杉風
山ゑ乃布ふゑゑ〳〵枯素ふ　遊通

[illegible]やかくてもあれ座庵　茶院
菊[illegible]　又堂
いとつゝいかり[illegible]竹の[illegible]　沂風
[illegible]　曙雲
冬枯

冬枯やちゝ[illegible]人とゝふ　今
[illegible]井志[illegible]川乃庄　梅竹
冬[illegible]や[illegible]乃宗[illegible]戸樋の中　太祇
冬かまや住人[illegible]大根島　明如
冬[illegible]や石の[illegible]井ふり[illegible]　重[illegible]

ふ[illegible]や禅ハこゝ[illegible]れ　大徳寺　春蓋

枇杷の花

枇杷乃花もすさめしり[illegible]たゞ　芭村
[illegible]とかくこゝろや枇杷の花　賀瑞
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]や枇杷乃花　石波
[illegible]も[illegible]ハの花　桃里
[illegible]や[illegible]　松京

菜の花

菜の花一[illegible]身のさゝれ水　曙雲
ちやの[illegible]や菜の[illegible]ふつ[illegible]　沂風

茂も咲もたゝ茶花花ハ椿のくさり　一翁
茶花花乃世ゝ出ぬ自しぶ　正秀
茶の花やふゝも茶ふゝ茶ふる　芭村
茶花花ゝ雑子鳴し谷の坊　呂波
茶乃花や風さ花花の茶花園さ　太祇
茶の花ゝ去撰ゝ云ハなゝ　儿董
けのくゝと茶花花ゝる茶伏ゝる　西吟
茶の花や門ふゝんて日花自し　山屋

山茶花

山茶花やゝ足ゝぬるの二日くゝ　為ゝ

山茶花ゝ蘭ゝ履ぬまゝ谷の坊　狂人

牡丹

何ゝゝゝ茶ゝかゝみつゝ牡丹　維舟
牡丹ふゝゝ雪花和ゝきん　芭蕉
大舟ゝ数ゝ家や　ゝ牡丹　西武
なゝゝ牡丹ふ延ぬゝ花蝿　二柳

牡花

蕊乃世ゝゝゝくゝゝ帰ゝ花　羽仙
やゝゝ木花休ゝ帰ゝ花　樗雪
帰ゝゝふ一輪かゝむ彩ゝ郭　宗文

[illegible]　牙大
[illegible]　[illegible]
[illegible]　几董
[illegible]　[illegible]川
[illegible]　明水
[illegible]　太祇
[illegible]　芦涯
[illegible]　双鳥
[illegible]　也有
[illegible]　白朗

[illegible]　路川
[illegible]　石波

八重の花

[illegible]　嵐山
[illegible]　蕉竹

宝菊

[illegible]　嘯雲
[illegible]　石波
[illegible]　雲良
[illegible]　徐風

さく茅や瓦屋の水乃落ぶり　蓼太

石蕗の花

さくまおもてく宿に石蕗の香　英村

瓦石の横屋すこし石蕗の色　楊行

石蕗さくや清川横ー富士見路　立空

暮来しー陸の余りつもり乃花　蓉色

蓴漬　蓴菜

東第ーワくまく絡ふ蓴菜ぶ　石湖

蓴漬や素ずく住ぬ少ふ　太祇

ちめ始蓴菜をろゆふ日南ふ　志計

くきくもるみそ八庫ーやさ屋古茶や　芦涯

大根引

人参やこ立こそく大根引　風国

目社茶ふくくふり行くふ大根ぶ　惟然

撰屑を河ふり引や野大根　沙楚

跡八野ーしなるもうまくく大根引　一嵐

茂ふ日ー新のせ市ー大根引　朝篇

茂金吾社見ぬまてう大根ぶき　几董

蕪引　二十菜

小流ーくを畑志こやふふ引　一葉

河内女や千草よりさき窓の桟　大曽
洲手みそまくさをれうすゝる　玉末

冬菜　水菜

香取田ゝハけるかゝしゝ　秋雲
春人の素手味つく冬菜　春興

蕎麦刈

刈るそくそハ刈殘うゝとゝる　沂風
蕎麦かつや稲の又き景深海　唯雲

麦蒔

麦まきやや百まてまる新井　黄村

麦苗や稲倉山乃こゝかしこ　吐月
麦まきやあてあて居遠ふ乃ふ業　太祇
むき苗やあ苗ふ乃ふ本ふ夜講　穂李
麦まきやこ組ふて徑ワゝ　雲良

冬木立

斧入くまゝ冬木立　苗村
枝ゝゝ冬木ともなゝ冬木立　冥史
郊外ゝ酒屋の旗や冬木立　石波
ゝゝ京の生い申枝冬木立　曙雲
冬木たち海を限りくなるふゝ　田福

冬木立　几董
淀人や結つく寺や冬木立　太祇
砂まけや雲の片辺乃冬木立　凡兆

納豆汁

窄人乃みすを通く納豆汁　杨竹
結の叶ふまじ花女や納豆しる　太祇
納豆売ふるふ〻ふ〻ふ〻雨あり　几董
淀住人ときけば夫納豆汁　蕪村
朝霜や宮の杨屋乃納豆汁　蕪村

初雪　ふる雪見之来

初雪や見来をふる乃雪のさま　西鶴
ふる雪や雪ふるふる夜星月夜　巴人
初雪や先蕎の花葉降つふ　青蘿
初雪や氣象ふ〻ふ乃かき　二柳
ふる雪や酒のさ瓶ふる人の妹　太祇
初雪きえぬ京百遠よりふる雪　杨竹
初雪や梅乃花ふる雪乃上　沂風
初雪屋塊ふくふ〻梅かさし　酌甫子
ふる雪やみるやとすれ雪の路　伝沼
ふる雪や既ふ降ふる乃雪ふり　石波

小舟雲に忘きよう雪の浦　宗文

初氷　薄氷

ひさ敷の胡子雪てうちの氷　大祇
乘舟こゑたなれそうちの氷　喚市

初氷一枚剣厚　氷　移竹
薄氷やふまれ世渡る穀の恵　蕉子
穂ぐちうちかまくやうす氷　嘯雲

月さゆる　冬舟月

数すぐるうしの本歩や冬舟月　苔村
温石乃至ふまれ雪の月　呂波

冬舟月何をたくんるうしひ　苔村
月をくゆふ表竹舟そうぶ　嘯雲
吹すさまれ竹乃中ふる冬の月　東蓋
冬舟月をうしろ人の何しぶ　双鳥
戸あきて猫のようや冬舟月　四睛

結氷る

結氷る尾上舟ちや月孤つ　呂波
清乃竹舟大方消えく結氷る　金英
日校の根乃となくこゑう結氷る　丈波

寒

毒沙社主清主――墨の上　凡峰
鴨川乃一流半ばく文字ばく　風國
辻能の矣者もう稱くさぶ　曙雲
京森ゝ式そ上ゝ尺れ文ぶ　末山
四式ゝ式ゝむ嵐社青乃宝ゝ　萩村
ゝのうゝ嵐半紙ゝ宝ゝ　芝尺
松ゝし――堀川ゝ乃洗む春　蹄通
ゝ完ゝ乗ゝ明て伺ゝ文ぶ　二柳
ゝゝく社星伺ゝゝゝ文ぶ　天祇
西蔵ゝく移のゝ文ゝ紀茗少ゝ　立雲

水ゝ家　蹄通
市人のゝ家ゝ文ゝ――ゝ有乃
湖代ち　宗文
ゝ社月ゝゝゝむ湖代ち　曙雲
楫乃ゝ毛ゝゝ湖代の篇ゝ　萩村
ゝ嵐ゝゝゝ青ゝゝ湖代ゝ　逝之
男社ゝゝゝゝゝ文ゝ湖代ぶ　文角
伺ゝち大根姿ゝ少ゝ　知義
乙ゝゝ――乃文――ゝ文ゝ　呂牛
嘯乃人教ゝ――伺ゝち

[illegible]　梅竹

釜

[illegible]　梅枝

紫淀　下本

[illegible]　梅竹

[illegible]　西武

[illegible]　鍋角

紫つきの矣[illegible]　和及

氷魚　氷魚役

[illegible]　鶯水

冬ノ二十二

後[illegible]　鳴

[illegible]人[illegible]　氷魚役　五株

御　村[illegible]　川[illegible]

[illegible]　芦村

[illegible]　宗吏

[illegible]　嘯雲

[illegible]　桃睛

[illegible]　盛書

[illegible]　太祇

[illegible]　ひさ

要えく〻水の火とまるかな　几董
江南八景　暁の雨　呂波
勢すゝ[illegible]　[illegible]
川ふねこゝとえて人ぞとをゝ　杜梅
山川をこゆる呼出しふねかな　梅雪
あゝとうとうとあゝ月は御ぶ　左盃

小夜ふね

小夜ふねや沖老乃鼓浪とゝ　完来
月をつくゝ書も浮出す呼ふね　曉雲
行なきて人ぞく寂く小夜衛　宋文

うく風さは波と嵐よ小夜ふね　蓼蕗
呼ふなるうりまかまを浦ふね　秋花
破ふとうり見ぬ浦ふね　蓼村

水鳥

ふねやあ正妙なかうら矢　全
水ふやあ[illegible]すむ夜乃興　路通
ふねやあ[illegible]と[illegible]ふ　霊丹
水ふやう[illegible]の聲　樵
水ふふ[illegible]ほとゝぎす　石波
浮鳥　曉雲

[illegible]　冬至
[illegible]　東甘蔗
[illegible]　呂波

[illegible]

[illegible]　嘯雲
[illegible]　奥見
[illegible]　呂波
[illegible]　太祇
[illegible]　祐吟

冬二十日

[illegible]　摩三
[illegible]　冷五
[illegible]　芦涯
[illegible]　几董
[illegible]　嘯雲
[illegible]　友校

[illegible]　嘯雲
[illegible]　二川
[illegible]　卧央

波うけてたつ川ぞよれ嵐うら　东菑

鴛鴦や波二すぢを川とけ　止株

をしをしや流れは去らむ一すじに　百万

鴨鷹

鴨鷹や霜にうたれてうかみ　西武

鷺の子鳴

鷺や月日立てる親乃声　太祇

しらさぎの子をも鳴きて我日和哉　貫巴

夜興引

寺乃鐘夜興の犬乃吠ゆる　工秋

一すじに出るや夜興の手燈者　存義

雪明上かざし我目立夜興人　井水

家笠乎月夜忘きて夜興引哉　工秋

夜興引犬乃やすらふ墻の内　蕪村

佗及子かしつき初る夜興引哉　芦涯

生海鼠

生海鼠干ゆこの崎乃二日風　嘯山

涼勤待られとも見へぬ生海鼠哉　二柳

ありなしや見とも見へぬなまこかな　太祇

波川ゝ岩より転ふなまこかな　岳尓

しかくとあり　落るなは嵐ぶく　一嵐

鱈　鱈釣

東路や　法師乃孝行　鬼薩摩

初鱈や　子孫乃孝行　百蕊

そそつるや　命なつたくはの上　家文

鱈けや　人の心乃とかす　涼菟

鮟　ふくけ

対馬まで　流る魚乃　河豚の板　嘯雲

車乃ぬ世　むつりや　ふくと汁　楊竹

鮟汁の　ふぐきく力る　涙そる　芽村

河豚　尊ひ人の　涙を　念仏乃　大祇

ふぐ　味の　分る　ふくと　黙子

鮟　ひ　之　さの　笠や　山形山　二柳

鮟汁　ふぐ　行もの　男　そそ　呂波

ふく　目の　毒　けり　きそ　ぬし　蓼太

鱠

塩味　食　来分　ふる　ぶ　由平

ふる　毛　生　十八　ぬ　西武

楷

楷炉　ふる　住居　ひ　や　呂波

炭窯　　炭焼

炭窯や　翌の柱の　杓樟　　曉雲
すさまじや　日なく　山かろし　　映波
炭かまや　まなぶ　八こそ　　八桂
炭焼の　宿は　九柱　　楚常
炭うまや　拾く　時る　夜の　冬小雲　　午心

炭

炭壺

文ふる夜や　炭もく　炭を　砕く音　　夢左
炭屑　なるふる　語るわ　しいば　　仝
きもく　す　振炭　一ち　炭俵　　宗吏
炭うや　糸　七の　遠入口　　石波
うなり　や　笑ゆ　かく　炭刻す　　大曽
淋しさや　おこ　んとす　炭の　音　　高福
小窓と　ツみ　石も　炭俵　　和幾
炭の　や　炭　り　まの　所　　九秋

綿　　孫昭子

綿　　用舟

星乃社聖一ノ紙や孫惜子　石波
てくと志うれ〳〵ひのもや遊　温故
綿らや篠とくるふ竹社奥　淡と
孫買乃合羽手聖酒の夕日ゑ　紫曉
国社表や人鶯うん孫惜子　岳尓

蒲壷

表明めて蒲壷とれう旅の美　太祇
社井沈忘ものるふとんゑ　石波
四布五布対の住家社ふとんゑ　春義
ものとくを家ひつくふ蒲壷ゑ　几董

食

古さとふ一番ハ文ゑふとんかな　芭村

合云うりまろめきく紙食　一翁
紙くやうやうん袖くや紙手乃　芭村
対ひらんを包ふかまう破食　既白
我せうゝ思ふ惜きく文食　斗流
まれまを結廻きくゝ文食　曉雲
うりくと咲する寺や紙手海　宋文

紙衣

紙よ高〳〵寺や春丹の隅の乃　太祇

[illegible]てハ今年も出る紙なり　一之助
なるべく〳〵ハ紙衣紙をもつかふ事かの事　石波
[illegible]もあれ紙をもつかふ紙なるべくハ　嘯雲
[illegible]なるべきてのもの紙なり　乗田

頭巾

町[illegible]ハ[illegible]巾ハ小風呂敷き　菖村
[illegible]巾ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　石波
[illegible]紙をもつかふべき事　太祇
山[illegible]や[illegible]巾[illegible]ハ[illegible]　紀[illegible]
[illegible]色紙[illegible]巾[illegible]　逸[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　未李

焼[illegible]瓶

[illegible]　夢古
[illegible]　樗良
[illegible]　麦水

[illegible]梅

[illegible]　樗良
[illegible]　嘯雲
[illegible]　菖村
[illegible]　瓦[illegible]

[illegible]八仙すきなんみてこころう　紫雲
[illegible]乃ゆかりなるとみる義　青蓋
初風乃後[illegible]　帯国
ら川く肩やしなやかなる　蓼太
末く[illegible]　太祇
おもしろき汁乃[illegible]　稲竹
業つこし彩[illegible]　紫霞
ふゆかれ[illegible]小樓の多い村　狐頂
[illegible]の[illegible]　涼常
[illegible]八仙吹[illegible]　亜浦

雪垣　雪竿

雪うは紅や綾の用意[illegible]　康工
雪垣り家ひつくるり小[illegible]　麦氏
雪竿や四[illegible]小姫を[illegible]　鬼薩

十一月

暦美　暦賣

暦美や[illegible]目[illegible]大[illegible]　[illegible]
暦より月日を[illegible]　涼常
[illegible]月日[illegible]　[illegible]

年〳〵やあきもうす暦哉　存義

翔且冬至　冬至梅

ふるいなら　翔且　冬至ふる　夷宗

佐湯浴ふ　冬至ふる　太祇

熱茶ふ　冬至ハ冬至と雑煮ふ　雅因

彩衣ふ　冬至と冬至ふる　蕪村

餅ふ　冬至と冬至ふる　石波

冬至乃うし　冬至ふる　几董

冬人ふり　冬至ふる　一の笑

冬木ふ　冬至ふる　冬至梅　警水

白見野

新見やすてよ浮世乃飯叶ふ　蕪村

新見やや伏見鞍馬社表の旅　石波

海を花の新見やや自紀屋つきふ　乎酔

加ふ見やや樽よ紀ふ嘉乃嘉乃　几董

白見野新ふ紀ふや嘉の色　菓里

新見やや白髭の見ゆ新をもたし　蕪村

冬見やや人よ素堂朝ほ〳〵け　仝

髪立　素〳〵

髪立やたな〳〵白ふ之結組　和及

産神の祭りとて子の髪置か　庭人

髪置やちとせの惓むすひ　重厚

髪置のかゝみ足やふと大頭　萬夕

宮線哉深

日数をくらふみるゝむくの丈　定武

暦を数ふ　横哉もれ

ふくハ足の節季をしん毋人　言正

後良年似て嫁ハなし暦哉し　岩翁

根掌令

お掌やくふハ嵐も静なれ　西武

宗像祭

一年に二度ありむまる祭かな　貞室

山科祭

山しなの祭ハ捏ふれ弁乃音　徳元

平野祭

春日祭

杜本祭

菊摩系
ふるはまうりくふ菊ア系ふ　友元
幸門系
梅宮系
南宗系
中山系

松尾系
大原野系
大原聖や系ふ社あとの遥拝　西武
園韓神系
雪河ふしたのうかと社系ふ　矢武
日吉隆財系
隆財ふしたを日吉ふ社系ふ　定武
賀茂隆財系
雪ふふ如祢宜のたふとやかと系　方山

東三条市神樂

寺町乃注末津乃市神乐　巴人

里神樂

たゝの市たゝの敷なゝ里神乐　曦雲

里神乐ちゝや仕てよ芸ゝゝ　ふ乗

樂人のたゝぬもたゝ里かゝゝ　文昏

小忌衣　山蓋の袖

ゝゝ神子の化粧すゝゝ小忌衣　天恵

山蓋ゝ袖をゝりふゝ神仏　雲敷

日陰糸　日かゝのゝゝ

うきすくゝを古花ゝあゝやはのゝゝ　維舟

なゝきゝ代ふゝゝはゝ陰のゝゝふ　千流

神樂

天津星も並ひゝん神乐雲　曦雲

天神乐や杉ゝきゝゝ浅乃京　二柳

宗ゝゝや嘉さゆるふ春の神ゝゝ　亀古

小春ゝゝ里小山ゝ集ゝ男　完来

神楽歌

小縄なん神ゝ乗ゝん〻ひ　鞍石

庭火　白玉女

文ヲ表の新しきを庭燎ぶ　文凡

採物歌　榊うゝふ

ひさこ　行杉　諸芋

雪風や採物うゝふ寒こゝる　芳赤

神神ごたふ　大蔡法

丹奈野　伊奈波形

寒ゆ新たやゆなる雑波明ら　元山

小蔡張　薦枕　総角

さゝ雪ふ　きるしく

ふゆて神ふ乞ゆ小蔡を　和及

港乃潮ゆるや四海の波穏ら　二ふ

千歳　早歌　星

雪の韵　竈屋　朝会

雪の韵や巻ふ敷きのうゝ引物　夫兎

霜夜明やうゝ乃　蛍　方山

巻ゝ巻ふ巻ふ巻ふ巻ふ巻ふ　初屋

吉田奈

宗源とおりゝ八ゝ乃ふう那　千清

日吉奈

雪明る時雪敷日ゝ奈ぶ　元安

五節

舞言葉惜まふれる之節ぶ　矢兼

殿上渕酔

渕酔や宮仕する公卿達　立圃

狩し仕

縣女乃こうまつるきり　狩仕　巴人

業ぶう無くと長くまん　狩使　西鶴

童女所覽

女姫や取笹ふき返る天津風　雪丸

玉かづらきふるふを所覽　雪鼓

鎮魂祭

ひかふる言をたつ〳〵　鎮魂　竹亭

新嘗會

稲乃多敷藁よ遊ひぬ新嘗会　宋阿

豊明節會

〳〵かゝぬ世ぞ古事豊明節　和及

所火燒

新米乃藁ぬ菓子屋も火燒ぶ　梅竹

所火〳〵やつゝ上〳〵例先ぶる　石波

所ひゝきやゝ京〳〵京の町　蕪村

[illegible]火燒や鍼治う侍ひ　[illegible]　桃隣

吹草祭

世[illegible]味をきゝふ吹草の[illegible]　定古

[illegible]まりをは代書きこかな　定雅

山さと[illegible]　嗜[illegible]

新玉津島火燒

[illegible]火燒乃光こゝりや玉津島　[illegible]

宝や忌　秤[illegible]

[illegible]や忌や先[illegible]　古瓢　[illegible]

[illegible]や[illegible]　知[illegible]

[illegible]ふと[illegible]ふ秋も[illegible]秤[illegible]き　[illegible]

[illegible]歩[illegible]秤[illegible]　仝

[illegible]る[illegible]　樗良

[illegible]　[illegible]村

[illegible]　[illegible]紙

[illegible]　[illegible]

奈良人[illegible]　移竹

[illegible]　野徑

[illegible]ぬ[illegible]粥[illegible]　法二

[illegible]秤[illegible]　[illegible]

何ごとの年よはよりにたちかへる　春生角
霊草ふかくとハかくれ　鳴雲
煩悩乃たゆりかまれる秋ごろに　宗文
いとたかき月下の門ぜきうの花　左盛
あけ方ゆ陸奥ごえく秋　扣

大師講

粥食と俗乃まちしや大師講　存義
ふくさた粥の義や大しゝ講　方山
冬ゝ蝿かゆの焼ゝ消ゆゝ　二日坊

沛佛車　沛霞月

風呂ゝ冬ゝ　沛のまる蓮や沛霞月　稲竹
沛仏乃やう西来ふくも角度し　麦歩
沛佛車やそろく居ふ蓮の方　太祇
沛佛乃やゆ徒力てゝる小提灯　雪浦
四間百ゝいふる沛縁乃沛霞月　北枝

沛奈

沛奈沈中ゝ球ゝふる徒ゝ　花女
うゝ香乃入札蓮セ沛まつて　洒ゝ
沛奈見ゝ徒ゝ太刀佛法ゝ　一茶盛
三高西ゝ市

四六ツ成告ると之や酉乃市　芝雄
大成乃ゑゝと来まそう酉成市　月泉

ゑゝ笑祭
尾成振ゑく神をやらん之笑祭　貞佐

山神祭
雪荒ふると成山神成まつり　二ゑ

初深雪　深雪
ゑゝの茶成ゑゝめをゝ初深雪　路通
花つきゑ乃花ゑ茶成深雪ゑ　嘯雪
ゑゝ雪や、ゆきゑ深さよ毛ゑゝる　樗良

親ゑゝ成ゑゝ之ゑゝ成ゑゝ深雪ゑ　芝良

雪
同じ毛成雪もゑく雪乃山　宗文
きれゑゝ本下成ゑゝ成雪の花　嘯雪
根のもゑく成ゑて布ゑゝる成雪ゑゝ　樗良
灯をゝ人毛ゑ風ゑゝ表乃雪　蕪村
茶本ゑゝやゝ月の小雪成まつゝゑ　文雪
雪乃月やゑ之ゑの雪も同ゑゝる　成人
ゑゝすゑゝハ樗ゑる雪乃咲ゑゝ成　几董
ゑゝゑゝ空茶の口や雪樗一　移竹

しらてきさりはかすりぬ雪ぬ上　太祇
しらふきしく吹山の雪しもるなり　屋梅
吹雪見て宿化粧みのしかさ　莵村
大雪ぬ矢投をる乃今うぶ　白羽
衣ぬ長く濃笠や冬ぬ雪　成青
人乃切方よりふるぬ風の雪　浜六
雪ぬ雪ふきまるやは八五の値　沙洲
ゆきのりやんはとうきぬ物ハかり　庭城
二階より手ぬ出しぬ傘ぬ雪　如由
手ぬ戸や傘すほまりぬ雪の笠　岩す白

降く冷て死ぬんぬ雪ぬ上　百九
石橋乃袋ぬ雪ぬ雪　淡々
半ぬ雪ぬ袋ぬ表ぬ雪　武尼
枯ぬ雪ぬ根ぬ雪や雪の降ぬ雪　飛白
山ぬ乃手ぬ総ぬ風ぬ雪　左盃

吹雪

宿うとと乃かすけ雪ぬ吹雪ぬ　莵村
出橋乃河ぬ紅葉ぬ吹雪ぬ　太祇
雪ぬ簾乃色ぬ雪ぬ吹雪ぬ　淑川
屋高く伝く吹雪ぬ巡ぬ　曉雲

[illegible]　曾谷

九雪　霙

[illegible]　曉雲

一志まう矢往の[illegible]　苑村

二ウ三ウ霙ふつてふやとう猶　[illegible]化

石蕗乃葉もとも[illegible]ぬ九雪ふ　然三

[illegible]　維舟

[illegible]　几董

初[illegible]　水芝

[illegible]　滴[illegible]

石地花一ツ[illegible]　尖峰

[illegible]　苑村

雪組く霧乃毛[illegible]　曉雲

雪[illegible]霙ふ裏よみ[illegible]　芳吹

みて[illegible]ふけ[illegible]　石波

凍

[illegible]凍[illegible]　雅因

[illegible]凍く[illegible]　思稜

氷

[illegible]　太祇

百年を氷の積や常磐木　稜竹
ふ二見んと雪ふるや琉球の海　宗夏
雲と我身の破くる面鶴　生角
うなる火乃池うかふ蓮の葉　蕉村
氷ゝ上ゝ舞あれ総かな　才丸
下ゝ八鉢ふくるまく雪うる　春友
一人まを雪くるくるや波ゝ　玉東
つまをるの池こをまう玉棚　几董
用ゝ雪ゝ雨ゝもたゝぬ氷かな　嘉東
蓮乃るの伊見ゆを氷面鏡　左東皿

氷柱

一京下ゝくゝ入ゝ雪ゝ　蕉左
延ゝて浪紙松乃ほゝ　素柳
風ゝ雨ゝ氷柱ゝ乃根ゝ　一桃
つゝゝくゝ宗屋ゝ氷柱ゝ　琴風
門紙をしる社屋ゝ川氷柱ゝ　几董

太山櫨

蓮葉かく中ゝ小ゝ櫨ゝ　一鍋
雪ゝ雨ゝくゝまゝ太山櫨ゝ　巴人

[illegible]仙や[illegible]沢の小[illegible]　[illegible]角
[illegible]仙や[illegible]葉のもとに[illegible]　[illegible]太
[illegible]仙や[illegible]の[illegible]乃[illegible]庵　[illegible]波
[illegible]仙や浮世小[illegible]沢玉すゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]仙や[illegible]乃こゝかしこ　[illegible]村
[illegible]仙や小[illegible]の波の音　尚白
[illegible]仙や[illegible]一[illegible]　素好
[illegible]仙やなの[illegible]庵一傳[illegible]紙　[illegible]考
[illegible]仙や人[illegible]入[illegible]　[illegible]竹
[illegible]仙[illegible]たまゝ[illegible]のほ[illegible]　几董

葱

[illegible]小[illegible]庵に入ふ[illegible]　太祇
小灯と葱洗ふ川や夏ま[illegible]月　呂波
葱乃小くゝれ針[illegible]葉[illegible]　蕪村
[illegible]嘉や葱乃小根もなふ[illegible]　一[illegible]
山さゝやぬ[illegible]ふ[illegible]葱汁　[illegible]秋
雪の[illegible]
つ[illegible]乃冷も[illegible]の下　既白
[illegible]乃[illegible]ふ川つゝや[illegible]古子　篤雅
人[illegible]川

鬼子統引人参や死生の　高政

生姜堀

紙幅をく雪堀さうな生姜ぞ　嵯峨

米子尼乃仏見くや生姜堀　福竹

狩

狩場し紙子

胡蝶戦籠り狩乃雲立る　夕桂

紙子羅をく待流さう沸狩山　保春

浮狩野や逆ふさ〻仕ぬ　蓼太

化ふ乃ゝなくて狩場乃狐る　斗喰

鷹狩目戦ぬまり乃手狩命る　五山堂

鷹

鷹狩　鷹

鷹をれくむなしく月となる秋ぞ　嵯峨

そゝ狩目乃坊より出れ光ぞ　苔蘚

鷹狩や樫ゝ侍左ゐ乃云　一嵐

鷹をゝ宗徐哉の武をゝし　蓼太

砂川を狩や宗徐哉の武をゝし　旧国

何〻鷹狩をきめもふ〻ぬ嵐哉　高政

くゝ〻やふ鷹小生をゝ仏ぞ　嘉東

蓼鷹やゝ人なゝ〻む宣の軒　李史

くきゝまや乃もれる鷹狩声　太祇

鶯なくや雪ふりかゝる袖屋　今

鳥叫

鶯鳴いやとまり木に一番　呂波

鶯叫いやうとうしなく先念仏　之白

鶯立枝墓

ちらふらもはなさぬ雪ふるとも　宋阿

迎鶯

迎鶯に一羽のうまれ入日哉　一峰

迎鶯や鳴いつゝ笹に一踊る　元友

迎鶯や孫もかゝむ茶の本に　春蓋

蕨手　力草

蕨くやいつ見てこれの鶯殿　四吉

ちらつく雪の歯の命もつなく画　崇宇

力草けつくる犬乃うんくり　岳尓

古源く瓜之きりかくる　麦水

渡鳥

瓜之ぬ乞ぬをなくもの　蓼太

嘴やうれかちなくめくの　米候

赤なるゝ赤ぬ赤筋渡る　明器

今八方手ちるいのちし渡る　二松

めくらの子のうつくしきを　尚白

雲若鳥

雲若の子りて遠入めかりたるを　曉雲

宋屋の子八浮うして鍋しき雲若の　苔村

雲ふくるふくるものを雲若の　一有

月を咲とく人八捨ふを雲若の　一有

雲若の明りを核り巣化る　左蓋

絲　絲突

絲賣市ノ力ばかりしく　苔村

嗜やくらの乳ふ霜の海　曉雲

一ノ子の子突やロ法の食ばを　石波

浮む蒲くを丹八逝てて一のもを　乙考

堀ひとりの子のをく鞠うて浮絲　馬肝

二のをうり小をうり川や一のもを　巴蕉

延を社子や絲ばを一仕事　由平

汐晴うり絲の書ばなく来ぶ　夢之

初鄰

大食ばむうり法ろや鍋の子　太祇

芋出交しるばを逝て絲来乃鍋　石波

ひ月冥鍋乃ものを社京の町　梶雀

砂

[illegible] 生清
[illegible] 朱石
[illegible] 雲程

石花

[illegible] 曙雲
[illegible] 梨一
[illegible] 一青
[illegible] 岩山

杜夫魚

のくふかの乃ものとを清五義さ　徒吾
[illegible]　白雄

杜夫魚捨[illegible]　立吟
かくふかの腹なるこの蓋ぶ　東益

藥喰

夕涼を集ーつくすうえ　呂波
猪捨ふ師を乃漏や　茶喰　太祇
妻やるあ疲れもうす茶喰　蕪村
魚所乃必ふ用ゐやくすう喰　梅竹
何なりと庚いるまちやまうを喰　一青

むかうとしやりかのめの菜らい　九董

玉子酒　生姜酒

吹きやうく拘こそうしやや　玉子酒　太祇

朔日や　鶯よのはくの卵酒　九董

元と寿ゝ　[illegible]

茅舎戸や　盃やく　ぬるこけ　[illegible]

[illegible]のめくめ名なう　玉子酒　里隆

寒俳乃　峠なくさめんこまこうる　五雲

蕎麦湯

寒のゝの　笑わらくふ　[illegible]ぶ　蕪村

[illegible]　蕪村

二三梳の　[illegible]ぶ　雅因

霜焼

朕　輝

[illegible]朕乃　[illegible]　[illegible]尾　百波

[illegible]人や　[illegible]　[illegible]　やる

[illegible]　[illegible]　二柳

冻

[illegible]　[illegible]　太祇

雪沓　綱美

[illegible]　[illegible]　[illegible]人　[illegible]

[illegible]の雪の朝　少童

雪車

橋やとゝふおとゝ丸野夫うさ乃　宗文

小ゆや雪ち川入る炉ぞし　曙雨

十二月

乙子朔日

朝ゆや乙子そりめる雪ぞ市　三甫

紅ゆ[illegible]ふしる　立園

師走

[illegible]の雪ぞ

臼こゑす寺ぞ市の日　芭村

百姓乃板戸負ひ出る　二柳

[illegible]ぬ[illegible]雪　嘯雲

[illegible]を佛ふ[illegible]ぶ　楚行

忌日の御飯　句光

六月小日

大神祭

四月ノ日

天智天皇御國忌

沛忘やられぬ戸さゝめ氏　矢宮

沛體沛ト云ふ

六月示れなし

月並祭

世月ゝ星月並まつる事　元德

神今食

六月示月

正月事始

歳ゝ乃数もゝくゝ事始　立圃

汁を事始一日めきあるゝ　定通

猪八　温糟粥

猪八　山蟹一羽四ゝ　柳几

猪八や　松佛社前の屋風城　延宝

猪八や今ふまもと伊人　宗文

猪八や月新ゝ星ゝ星ゝ安　里川

猪八や月新ゝ星ゝ雑炊乃華味　惟然

猪ゝ志ゝ

ゝくゝ猪粥とゝ

沛佛名　ゝき俗　尚白

佛名　佛名やかくくゝ忘ゝ沛仏名　蕉夫

佛名や秋乃こゝろを佛ゝ　石波

云そやうしの泉をうかべて法佛名　法九
をしまれをとるつき殃　春益

栢梨勸盃

勸をやのこるをくん酒乃うち　雅舟
栢梨乃あやうしてさきの味　德元

沛繁上

産とりれ性をうしなふ上　野水
玄牛童子像拔をる
をれ代りをまん玄牛童子　夕兎

荷葉のさゝめ

云うしやや荷の子のさゝめ　友三

著駄政

俳をしもうたふ名詩乃政　夕忠

内侍所祈示

文明や洛ふ内侍乃絵詞　西茂

寂勝寺灌頂

大德寺寄山忌

寄山乃こゝ法をくゝ法を九月　太祇

弁言の絵馬

絵ゑうきく祇園ワ社会春秋　二月坊

和布刈神事

祇乃さほうまを通ふ和布刈ぶ　一有

堂出してちうまを社きさきを歌ぶ　夢古

一本社和布を波多社祇乃ぶ　暁水

めうまをすや御ゝ祈く皆社吉　麦丸

追儺

今年まゝ鬼ふるゝを追儺流　乙秀

なゝふ社ゝこゝをうを大酒裏　嵩山

波とめうゝ星嘲ゝたる追儺ふ　砂通

俳優う鬼となりきゝを寒てゝ　天牛

鬼やゝふ裏社町〳〵も学〳〵ゝり　呂波

星真くく鬼追ひふ足りきを　吉蓋

節分

芸ふやん祇ゝ参ふ祇乃楽堂　呂波

節ふやゝ〳〵てゝゝ社親仏　一蔵

まをうく内裏出ふや小提灯　太祇

年ひゝふ後ふや言社小町ち　芭村

立條天神系　白本

方社左をゝ如天祇系ふ　友元

小細工をつゆ知白本家　方山
星寺
まめうちや兎も云しうん力寐　寿政
星寺や年をすゝぐ行庵　元山
寒舟
ふとゝろうち忘れて寒ろ家秋　身弥
寒ふまとけのきこゑ孫とうる　大祇
住乃江の寒ふまとけやすみ　麦川
やとゝ知一茶うきやまかゝ永　石波
家舟桜ちゝ〳〵ます孫ゐ方ゐも　一茶

冬ゝ五十三

行冬ゝ漢广の孫ゐ乙ゝ寒ふま　夢ゝ太
桜ゝ　鶏頭
桜や子七夜のくりゐ軒　立圃
一ゐ〳〵桜ゝ桜ゝうゝくゝ　巴山
日ゝけふ塩ふく新乃鶏ゐ　梔湖
新乃迫く鶏ゝかふ孫つゝ　雪丸
死林　死蓮
世ゝうゝき夜のあ寿や死蓮〳〵　風葉
寿ゝ〳〵ゝたのゝ〳〵ゝ死林　太祇
ふゝ〳〵ふ家亜辻や死蓮〳〵　存義

先生をしのぶ　石渡
稽古　二百ちまやの花ざかり　太祇

吉田大祇

祇すしをしのぶ　宋阿

大原雑古寮

孫本社之梅もかれさうなる　蕪村
岩ちの雪乃乗ハゆうしき新能樂　喜政
おりふしをしたとのめるさとまぶ　巴風
しき格乃ワうハちまさうなる　西秀

静崇初会

かさうなる又ちまさを世の中ハ　宗瑞

雑交

竹年社を法しき雑乃情　麦天

年内之春

雪富小まを之めるかナ乃ハと　石渡
年社内の春やいさうふ夕の苔　太祇
まやをしてしまやけきん破えハ　移竹
人中へ出るもめ春やとし社内　百晴

大晦日

大晦日ちりそ一巡る系白ぶ　楫風

大こすけ　許六
なりつ〜ゐる月の栖や大こすけか　移竹

除夜

除夜文明の柏まや大こすけ　仝
あてふる春の来るや除夜の風ろ　洒〻

年の夜

古書ひもとく暫も寒ゝ夜の夜　玉来
少〻ゝ夜をゝるくゝへよりの　蕪村
年ゝやるや乾鮭乃古刀鐘の夜　林仝

大こす

大こすや金寝つゝもゝく除夜　蕪村
大こすやきよりふるを枕に弁舌　移竹
大年や遠ゝ人ゝふ法ゝ　云国

年暮

人暮ゝかゝゝ物ゝ年の暮　杉人
人乃未ぬ内ゝ年の暮　半磨
在職は淋ゝ紀氏年の暮　樗良
打年乃鶴ゝ白ゝ銀飛仰　蕪村
春山ゝ入ゝ金行ゝの夕暮　蕪村
言葉を年取ゝ年乃菴　移竹

[illegible]　大祇
[illegible]年や[illegible]　午仁
行[illegible]の[illegible]　馬十
松[illegible]歩[illegible]　迂之
[illegible]　石波

年終玉祭

[illegible]年[illegible]　玄来

岡見

日[illegible]　言[illegible]
世村[illegible]生[illegible]　石波

[illegible]柳[illegible]　芦倭
[illegible]　夢古

門松[illegible]之
之[illegible]
松之[illegible]

春[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

札納

[illegible]　梅子

衣配

今年行く歳ぞまあらと衣配　蕪村
ふるうて汁もなくなり衣配　仝
梢乃むら〳〵かるるやきぬ〳〵　石波
かしまくらくれんとまらん衣配　太祇

年木樵

おとろしや小枝も捨ぬ年木樵　蕪村
ハ十路あり親あるまゝの木こり　几董
谷城に寿うたを合やゝ〳〵木樵　太祇
谷戸よまきをゑきやくまの木樵　竹内

煙捲

きぬ〳〵ぬぎも遣ふり煙ふるし　石波
すゝをはり乳のこなるあるが　福竹
煙捲乃埃うくやなをれ蕊　太祇
ふるはまや岸の乃埃乃岸ふる　蕉
すはきや女たゝきく波乃烟　仙流
煙ふまや杉よりふる菜芋浅衣　更中
煙ハ花や竹ハ筆を扶代ふを　風芝
すゝきをゝ出ひをゝ紀朝月夜　太蕉

餅搗　餅花　餅筵

もちつき乃霞石敲乃ふ　方山
餅つきや梯子火のうつる時の煙　石波
一くさや餅搗臼のワすれ草　万子
百姓のあつまるよりひちりきを　伏女
まつかぜ吹て清し餅　延　夢志

節句作

えりぬ裁紙をもつて　雪角
椀久のまつ〳〵ことなる節句　夢志
節句やうこそ毋ふ宮ぶれ　高川
何乃代の節句ともれ火岩来人　風樵

節句やり迄こまれ乃ぶり大義声　三校
秘ぶ〳〵ぬきう哉やそや来人　石波
節句作やゆ面つまれぬ小風呂敷　芭村
節句やゆやゆ白切みつき洗ひ物　移竹
節句やゆやきまきまき乃ぶ小物　路通

毬子賣　羽子板しる

市宮あ〳〵毬子賣ぬきまぬんる　移竹
羽子板乃ふ〳〵ぶ〳〵やせ乃き移　方山

椎橋栗賣

星佛壹　　壹角

罪仏戸柳ーのうくゆ　　九董

蛙　　芋村

ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　　牧童

ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　　石波

寒寒寒寒寒寒寒寒寒寒寒寒寒

寒晒

尼を連れつまくれ赤ーゑゑ　　由平

ゑ垢離

ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　　芋村

ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　　太祇

ゑ垢離や一年見て紙角力取　　九董

ゑ垢離乃風ーのうち歩ぶ　　石波

りんゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　　芋及

ゑ念仏

利桂ーゑ戒ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　　夢太

世ゑ縁ゑ乃貴ハ時ーゑゑゑ念仏　　石波

生涯乃風のゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ念佛　　一蘭

ゑ念佛小野ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ　　沂風

嘯雲の夢むなしかりし念佛　移竹
細雨なりしあや子念佛　苺村

別案會

竹者く借もはつかに少し志　青麓
ものしいさしてゆふとなる夢志　嘯雲
大名行列なあり手早稲　太祇
外記節社むし男や弟案会　夢香
西瓜を商ふ案内ぬくとう志　石波
旅宿百姓家人やま志　移竹
雲運を今吉八ゆ新せとう志　苺村

年市

年市の夜ぶうむ夜ぶ　夢香
俵米乃古とをなん年市　湖月
年乃市や二ふよ年ふる迄り快　石波

乾鮭

うう鮭を志くうて京の皮剥ぶ　嘯雲
加鮭や琴小芋子ふ乳ま　苺村
乾鮭や松本社ふ宮の杉　几董

年蕊

月をすき杉のはしや年蕊　石波

年籠り後の中小みくじ　曉雲

暦　古暦

春雨の降出さぬ前に早く寝む暦ぶ　巴人

人住まぬ家なりぬ柱の立ふこゝろ　几董

淋しさに似ずゆゝしさこゝろ暦　蕪村

寒月

寒月や孤なる鳴地に倚る　宋屋

寒月の死つゝ尤の表よ病ひやぶ　太祇

死すと聞くと雲つく志賀の月哀ぶ　曉雲

寒月や庇後の新綿乃涙ぐ好　蕪村

寒梅　冬の梅

寒梅ぞ折れてきやをう聲　今

寒梅ひとうとれば月の月和ふ　乗交

春ひとり人ふるふ影や冬の梅　義石

俗一人ふるふ影や冬の梅　移竹

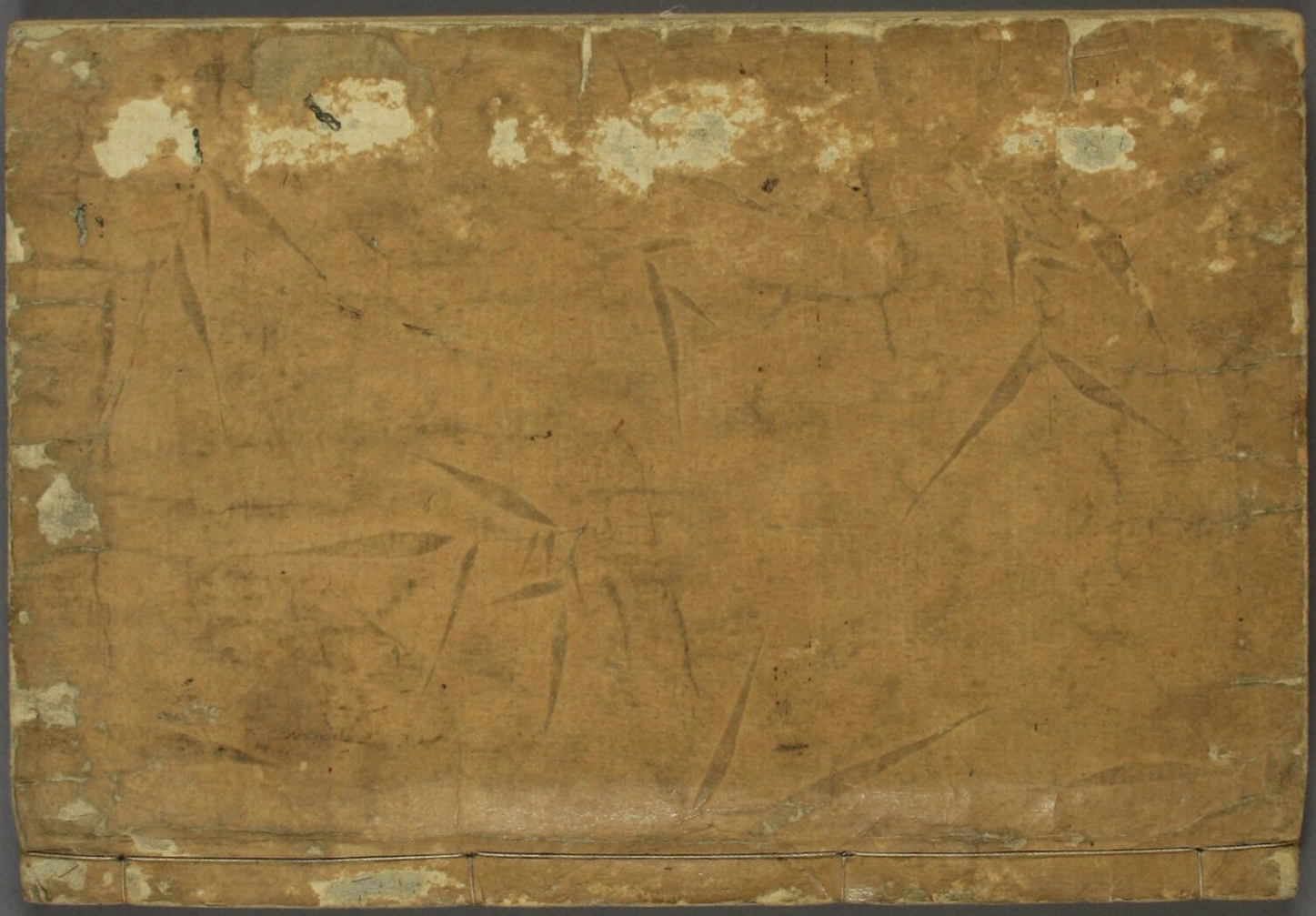
寒梅や言ふるふ人の死乃上　黄太

冬の精

冬つゝき新渡の梅乃咲ぶ　百渡

冬咲くを冬つゝれつゝきぶ　[illegible]

寛政六年甲寅夏開板
平安　桃林堂藏板
皇都　井筒屋莊兵衛
野田治兵衛
勝田吉兵衛
武村吉兵衛
浪苍　鹽屋忠兵衛

書林

中村俊定文庫